

株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第361号

日経平均株価

3万2473円65銭

▲269円32銭(前日比)

TOPIX

2303.51

▲20.94(前日比)

2023
8/14
月曜日

1Q好決算銘柄を狙う

任天堂、カプコン、トヨタなど

主要企業の第1四半期(4~6月)決算発表が峠を越した。業種や個々の企業で濃淡はあるが、全般的には想定以上に好内容の企業が多かった。しかしながらフィッチによる米国内長期債の格下げによる全般相場の急落により、好内容が株価に反映されていない銘柄が少なからず存在することだ。国内外のマーケットともに多くの投資家が夏休み入りとなり、まずは閑散相場となるものの、9月の年度後半相場に向けて注目できる好決算銘柄をピックアップしてみた。

年度後半相場に向け注目

期待以上の好決算「セクター」だ。任天堂となつたのがゲーム(7974)は第1

ズ・ムービーの世界的大ヒットでライセンス収入も増加した。

カプコン(9697)も第1四半期は

営業利益で前年同期比99.4%増の2

40億4700万円

と大幅な増収増益で

着地、コナミグルー

プ(9766)も連

結営業利益で前年同

期比22.2%増の

171億5100万

円と大幅な増益とな

っている。地政学リスク高ま

1Qは大幅増益が多かった

四半期の連結営業利益で前年同期比82.4%増の1854億4100万円と大幅な増益で着地。ソフトでは「ゼルダの伝説 ティアーズオブオブリビア」などのヒットに加えて、「ザ・スーパーマリオブラザー

日経平均の日足チャート

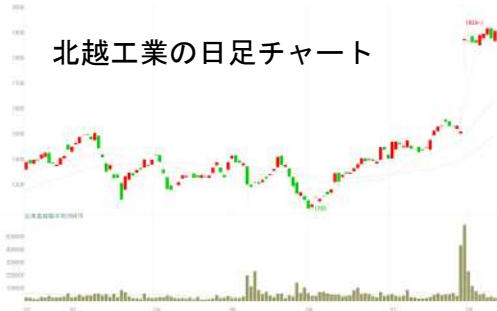


りから防衛関連が拡大しているのが三菱重工業(7011)で事業利益では前年同期比3.5倍の519億7500万円となった。

トヨタ自動車(7203)は1四半期の営業利益が前年同期比93.7%増の1兆1209億円市場予測を上回り、大幅な増益を達成した。為替レートは1ドル125円が前提であることから通期予想は上ブレ期待が高まろう。

日本ハム(2282)は事業利益が前年同期比32.4%増の121億4000万円を着地し、第

四半期累計に対する進捗率は61%であることから上ブレ期待が高まる。



北越工急伸し最高値

インバウンド回復で上方修正

円(前期比1・2%増)、営業利益で36億2000万円から65億5000万円

週明け31日、北越工業(6364)が急伸、最高値を更新した。24年3月期の業績予想について、連結売上高で470億円から496億円(同35・3%増)へ上方修正した。インバウンド需要回復で、ホテルなどの改修・新築工事が堅調に推移、主要都市での再開発事業は依然として継続している。

目M&Aストップ安で最安値

日本M&Aセンターホールディングス(2127)がストップ安まで売られ、上場来安値を更新し

た。24年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益17億1600万円(前年同期比52・6%減)と大幅減益で着地。成約件数は増えたが、単価低下と売上原価の増加、人員増による固定費負担が収益を圧迫しており、通期予想の170億円(前期比11・1%増)は大幅な下振れが懸念された。

トヨタは94%営業増益

1日、トヨタ自動車(7203)が新値追いついた。この日場中に発表した24年3月期第1四半期の連結決算は、営業収益10兆5468億3100万円(前年同期比24・2%増)、営業利益が1兆1209億円(同93・7%増)と市場予測を上回り大幅増収で利益が大幅に拡大した。通期は営業利

益3兆円(前期比10・1%増)と期初予想を据え置いたが、為替レートは1ドル125円が前提、1Q高進捗で上振れ期待が高まった。

エンプラスAIに期待

エンプラス(6961)がストップ高。24年3月期の第1四半期では減収減益となったものの、光通信

関連の光学デバイスが、AI用途などのハイエンド領域が伸びていることから生成AIに絡む受注増期待が高まった。

クイックが急落

クイック(4318)が急落。24年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比9・5%減の30億500万円となった。積極的な人材への投資の一環としての社員

の待遇改善や新卒、中途採用の強化に伴う人件費の増加などが影響した。

山パン品揃え強化で増額

2日、山崎製パン(2212)が3日連続騰。23年12月期の業績予想について、連結売上高で1兆1080億円から1兆1330億円(前期比5・2%増)、営業利益で270億円から340億円(同54・3%増)へ上方修正した。主力製品の品質向上を図り、低価格帯製品や価値感のある製品の品揃えを充実した。



公開価格の2.1倍

Laboro. AIの初値。Laboro. AI(5586)が東証に新規上場、公開価格580円の2・1倍となる1195円で初値をつけた。機械学習を活用したオーダーメイド型AI「カスタムAI」の開発、カスタムAI導入のためのコンサルティングを行う。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は反発。日経平均は前の週から280円上昇しています。上値は重く膠着感は強かったものの、下値では買いが入り底堅い動きでした。米7月雇用統計の結果を受け利上げ長期化への警戒感が円を割り込ませ、格差の下落に連休前の100円を超えたものの、00円を近して確認するか前週末で決算に移るでしょう。CPI受け物色の流れ確認

CPI受け物色の流れ確認

花咲翁 結果はインフレ鈍化を示唆する内容でした。市場の反応と物色の流れを確認しながら、チェックした好決算銘柄と材料株の買い場を探ります。

正直いいさんの株で大判小判。前週末で決算に移るでしょう。CPI受け物色の流れ確認。結果はインフレ鈍化を示唆する内容でした。市場の反応と物色の流れを確認しながら、チェックした好決算銘柄と材料株の買い場を探ります。

半導体関連軒並み安

NASDAQ安やレアメタル規制

2日、東京エレクトロン(8035)やアドバンテスト(6857)、レーザテック(6920)、ソシオネクスト(6526)など半導体関連の下げが目立った。ニューヨーク市場でハイテクの構成比が高いナスダック市場が3日ぶりに反落したことや半導体材料のレアメタル輸出の規制が中国で始まったことがネガティブ視され、短期急騰による利益確定売

アイホン上方修正

アイホン(6718)が大幅に3日続伸。24年3月期の業績予想について、連結売上高で567億円から600億円

(前期比13.6%増)へ、営業利益で43億円から55億円(同46.3%増)へ上方修正した。部品供給の回復により海外でのバックオーダーの解消と国内での受注内定残の納入が想定よりも好調に推移、継続的かつ積極的な営業活動による販売機会の拡大などが寄与した。

日本ライフレ急伸し高値

com事業において売上が減少した。

日本ライフレイン

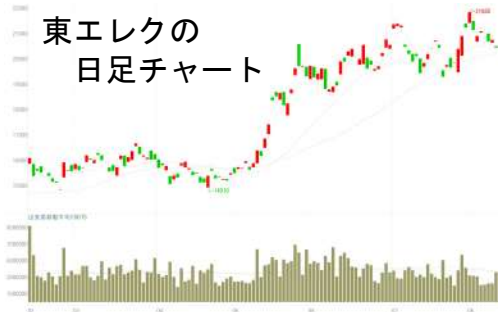
(7575)が急伸、年初来高値を更新した。24年3月期の第1四半期決算を発表、連結営業利益で前年同期比17.3%増の31億7600万円となった。5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更されたことを背景に、病院の手術件数が増加し、販売は概ね好調に推移した。

カカコム営業減益

3日、カカコム(2371)が急落。24年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比3.8%減の51億7100万円と減益となったことが嫌

気された。食ベログ事業における飲食店販促事業、求人ボックス事業、新興メディア・ソリューション事業のうち旅行・移動領域において売上が増

東エレクトロンの日足チャート



加した一方、価格

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

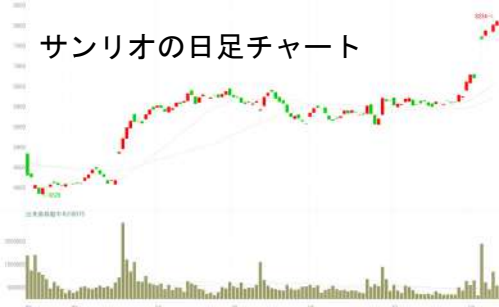
独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック

サンリオの日足チャート



サンリオがストップ高

1Q営業益2.5倍で通期増額

3日、サンリオ(813)がストップ高。24年3月期の第1四半期の連結決算は、営業利益59億6400万円(前年同期比2.5倍)と収益が急拡大、通期予想を1.7倍(前期比2.8倍)へ大幅に上方修正した。店舗・テナメントは人流活性化を背景に客数が

大幅に増加、ライセンスも順調で、年間配当も35円から45円に引き上げた。

品川リフラ増額と分割

週末4日、品川リフラクトリーズ(5351)がストップ高。24年3月期の業績予想について、連結営業利益で51億2000万円から142億9000万円(前期比30.9%増)へ上方修正した。販売価格の改定を進めたことに加え、海外事業の成長を推し進め、販売構成差、継続的なコストダウンの成果が要因。同日に9月30日を基準日として1対5の

株式分割を実施する。三菱重工業(7011)が急伸、年初来高値を更新した。24年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比3.5倍の519億7500万円と大幅な増益となったことが好感された。

三菱重工業(7011)が急伸、年初来高値を更新した。

ユシロ化は上方修正で増配

7日、ユシロ化学(5013)がストップ高、年初来高値を更新した。24年3月期の

8月第2週の動意銘柄

業績予想の修正を発表、連結売上高で515億円(前期比10.7%増)へ、営業利益で20億2000万円から28億9000万円(同2.7倍)へ上方修正、年間配当を25円か

ら35円(前期10円)へ引き上げた。北米を中心に回復している。

富山第一ストップ高

富山第一銀行(7184)がストップ高。同社は4日の取引終了後、24年3

月期の業績予想の修正を発表、連結営業利益で64億円から80億円(前期比26.5%増)へ上方修正したことが材料視された。有価証券関係損益の増加が当初予想を上回る見込み。

ムズ(7518)が

ネットワン37%営業減益

ネットワンシステムズ(7518)が

急落、年初来安値を更新した。同社は3日(4月6日)決算を発表、連結営業

スクウェア・エニックス・ホールディングス(9684)が大幅に4日続落。連結営業利益で前年同期比78.5%減の30億9700万円となった。スマートフォン・PC・タブレットなどをプラットフォームとしたコンテンツで「ドラゴンクエスト」のサービスを開始したが、既存タイトルの弱含んだ。

戻り売り対処

先週の東京株式市場は反発しました。日経平均は現在際どい位置での攻防となっています。日足は75日線(3万1735円)がサポートラインで25日線(3万2525円)がレジスタンスライン。週足は13週線(3万2280円)が下値サポートとして意識されていますが、右肩下がりの5週線(3万2413円)とのデッドクロスが避けられるのかどうか。月足は今月末に3万3476円を超えられないと2カ月連続の陰線並びとなります。

足元で決算発表が山場を迎えています。日経平均の一株利益(EPS)は7月末の2152円に対し、8月9日段階では2142円と伸びていません。春先から日本株を大量買いした海外勢がいつ第二段の買いを入れてくるのか市場は心待ちにしていますが、現状の決算では二の足を踏むかもしれません。8月1日高値を抜くまでは戻り売り対処でしょう。 日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル



～決算情報～

三相電機

第1四半期21%営業増益 受注残豊富で安定調達、値上げ効果も

三相電機（6518）の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高46億7900万円（前年同期比4.7%増）、営業利益2億9800万円（同21.1%増）、最終利益2億4600万円（同11.2%増）と増収2ケタ増益で着地した。

半導体製造装置用ポンプは対中輸出規制やメモリ価格下落による設備投資抑制の影響があったが、受注残が豊富で堅調に推移、原材料コストの上昇を部材安定調達体制確立と値上げで吸収して収益性が向上した。

通期は売上高177億円（前期比4.9%減）、営業利益6億8000万円（同24.6%減）、最終利益5億円（同38.7%減）と期初予想を据え置いた。期末一括配当は27円（前期25円）を予定。

ハリマ化成G

ローター需要減で下方修正 新規需要や香料原料製造で収益再建

ハリマ化成グループ（4410）の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高225億9600万円（前年同期比1.9%増）、営業損益3億7200万円の赤字（前年同期13億4000万円の黒字）で着地。通期予想について、売上高を1055億円から910億円（前期比3.7%減）、営業損益を20億円の黒字から14億円の赤字（前期17億600万円の黒字）に下方修正した。世界的な景気後退に伴うローター事業の需要が減少、減収により損益が悪化する。

ただ、ロジンは再生可能資源として新規需要が期待され「顧客の在庫も底をつきつつある」（会社側）としている。国内初香料原料の製造を開始、買収したはんだ事業も順調に伸びており、早期収益再建へ布石を打っている。



8日、日本ドライケミカル（1909）が年初来高値を更新した。24年3月期の第1四半期決算を発表、連結営業利益で前年同期比4.0%増の6億4000万円となった。大型案件の工事が進捗、消火設備用機器・製品の販売が好調だった。同時に上限20万株（発行済株式総数に対する割合は29%）の自己株式取得枠

日ドライ3連騰で高値
1Q営業益4.1倍、自社株買いの設定を好感した。

神戸鋼は営業益増額

9日、神戸製鋼所（5406）が3月期の業績予想に達し、営業利益は前年比4.8%増の10億5000万円から11億0000万円へと10%増の1億5000万円増となった。

炭価格の下落に伴う改善、電力の一般向け需要の増加などが影響している。また、燃料費調整の改善も寄与している。

阪神内燃機工業（6018）が急落。24年3月期第1四半期決算は営業利益で前年同期比62.8%減の1億1300万円となった。資材コストアップの影響を製品価格に転嫁しきれず、大型設備投資による減価償却費が増加した。

阪神内63%営業減益

野でも脱炭素社会の実現に向けた積極的な投資の継続が見込まれる。

レーザーテック続伸

6月期は連結売上高で1900億円（前期比24.3%増）、営業利益で640億円（同2.7%増）を見込んでいます。最先端半導体分野において過剰在庫の解消と需要回復で、設備投資が拡大に向かうことが期待されています。

～決算情報～

TOA

第1四半期は赤字幅縮小 イスラム圏で宗教市場向けが伸びる

TOA(6809)の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高100億4200万円(前年同期比10.5%増)、営業損益1億1400万円の赤字(前年同期3億200万円の赤字)、最終損益6300万円の赤字(同2億6700万円の黒字)で着地した。

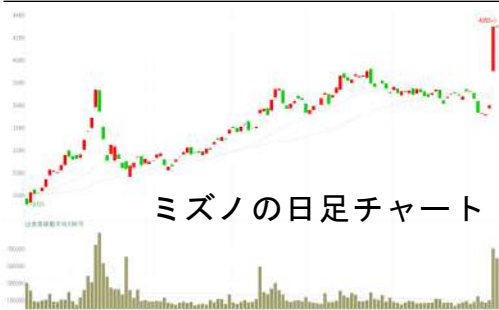
営業費用は増えたが、インドネシアやマレーシアなどのイスラム圏で宗教市場向けが伸び、アメリカでは官公庁向け、カナダでは病院向け納入が進み収益性が改善、赤字幅が縮小した。最終段階は前年同期に土地売却益を計上していたことで赤字転落になった。

通期は売上高480億円(前期比6.4%増)、営業利益25億円(同45.9%増)、最終利益15億5000万円(同12.2%減)と期初予想を据え置いた。年間配当40円を継続。

あじかん

第2四半期予想を上方修正 販売価格見直しや自社ブランド拡大で

あじかん(2907)は24年3月期の第2四半期累計予想について連結売上高で235億円から240億円(前年同期比4.7%増)へ、営業損益で3億8000万円の赤字から2億3000万円の黒字(同6.4%減)へ上方修正した。卵原料の供給制限に伴う玉子製品の販売抑制などの影響があるものの、玉子製品や海外調達品などの販売価格見直しに加え、野菜加工品、自社企画ブランド品・仕入商品の需要が拡大。輸出では販売価格見直しに加え、オセアニア、香港、シンガポールを中心に需要が拡大し、生産では歩留まり改善や供給制限に合せた加工費のコントロールなどに取り組んだ。通期は売上高500億円(前期比5.4%増)、営業利益4億5000万円(同5.05倍)従来予想から変更はない。



ミズノの日足チャート

第1四半期の売上高は440億8000万円(前年同期比12.2%増)で、営業利益は1億1400万円(前年同期比10.5%増)と、赤字幅が縮小した。最終段階は前年同期に土地売却益を計上していたことで赤字転落になった。

スポーツ用品大幅高

予想以上の好決算がサプライズ

ミズノは9日、第2四半期の決算を発表した。売上高は235億円から240億円(前年同期比4.7%増)へ、営業損益は3億8000万円の赤字から2億3000万円の黒字(同6.4%減)へ上方修正した。卵原料の供給制限に伴う玉子製品の販売抑制などの影響があるものの、玉子製品や海外調達品などの販売価格見直しに加え、野菜加工品、自社企画ブランド品・仕入商品の需要が拡大。輸出では販売価格見直しに加え、オセアニア、香港、シンガポールを中心に需要が拡大し、生産では歩留まり改善や供給制限に合せた加工費のコントロールなどに取り組んだ。通期は売上高500億円(前期比5.4%増)、営業利益4億5000万円(同5.05倍)従来予想から変更はない。

9月20日、東京エレクトロニクス(6209)は、第2四半期の決算を発表した。売上高は100億4200万円(前年同期比10.5%増)、営業利益は1億1400万円の赤字(前年同期3億200万円の赤字)、最終損益は6300万円の赤字(前年同期2億6700万円の黒字)で着地した。

半導体中国へ投資規制
レーザータック(6209)や東京エレクトロニクス(6209)は、第2四半期の決算を発表した。売上高は100億4200万円(前年同期比10.5%増)、営業利益は1億1400万円の赤字(前年同期3億200万円の赤字)、最終損益は6300万円の赤字(前年同期2億6700万円の黒字)で着地した。

イフジ産業は最高値

イフジ産業(2907)は、第2四半期の決算を発表した。売上高は100億4200万円(前年同期比10.5%増)、営業利益は1億1400万円の赤字(前年同期3億200万円の赤字)、最終損益は6300万円の赤字(前年同期2億6700万円の黒字)で着地した。

板硝子増額でストップ高

JRCCの初値
JRCC(6224)は、第2四半期の決算を発表した。売上高は100億4200万円(前年同期比10.5%増)、営業利益は1億1400万円の赤字(前年同期3億200万円の赤字)、最終損益は6300万円の赤字(前年同期2億6700万円の黒字)で着地した。

板硝子増額でストップ高
板硝子(8035)は、第2四半期の決算を発表した。売上高は100億4200万円(前年同期比10.5%増)、営業利益は1億1400万円の赤字(前年同期3億200万円の赤字)、最終損益は6300万円の赤字(前年同期2億6700万円の黒字)で着地した。

～決算情報～

英和

荒川化学工業

2ケタ増収営業益5.4倍

1Q長納期化改善しリプレイス堅調

英和（9857）の24年3月期の第1四半期（4月～6月）は連結売上高で88億4100万円（前年同期比11.6%増）、営業利益3億6500万円（同5.4倍）と大幅な増収増益で着地した。

商品長納期化を見越した顧客の先行発注姿勢に落ち着きが見られた他、社会インフラ市場向け特殊車両についてベース車両の長納期化の影響が出るなどして受注に減速感が見られるものの、販売については、商品長納期化が改善したことに加え、産業用装置・重電設備業界、建設・プラント業界、造船業界、電力業界向けを中心に機器の販売やリプレイス需要が堅調に推移した。

通期は売上高420億円（前期比1.7%増）、営業利益19億5000万円（同2.9%増）の従来予想から変更はない。

板紙向け紙力増強剤堅調

1Qコスト高と原価消却が損益圧迫

荒川化学工業（4968）の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高172億9800万円（前年同期比18.3%減）、営業損益8億3400万円の赤字（前年同期5億7100万円の黒字）、最終損益3億1400万円の赤字（同3億7600万円の黒字）で着地した。原材料、エネルギーコストが高止まりするなか、本格稼働した千葉アルコン製造の減価償却費が損益を圧迫しているが、海外で板紙向け紙力増強剤が堅調に推移、精密部品洗浄剤も好調だった。

注力中の光硬化型樹脂と半導体向けファインケミカル、ハードディスク用研磨材の重点3分野が下期以降貢献することから、通期は売上高830億円（前期比4.5%増）、営業損益18億円の赤字、最終損益18億円の赤字と赤字ながら増収を見込む。

立花エレテック

大和ハウス工業

第1四半期29%営業増益

受注残豊富でパワー半導体大幅増

立花エレテック（8159）は23年3月期の第1四半期（4月～6月）決算は連結売上高で558億8000万円（前年同期比9.4%増）、営業利益で27億5000万円（同28.9%増）、純利益22億4700万円（同9.1%増）となった。

FA機器では、半導体製造装置関連や物流関連等の設備投資に多少の一服感は見られるものの、依然旺盛な受注残に支えられ、プログラマブルコントローラー、インバーター、ACサーボが大きく増加、半導体デバイスでは、メーカーによる製品供給の回復と旺盛な需要を受けてパワー半導体は大幅に増加。

通期は24年3月期は売上高2230億円（前期比1.9%減）、営業利益95億円（同7.9%減）、純利益70億円（同10.7%減）と従来予想を据え置いた。

21%増収56%営業増益

1Q開発物件売却順調でホテルも回復

大和ハウス工業（1925）の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高1兆2145億9500万円（前年同期比20.5%増）、営業利益930億7500万円（同55.9%増）、最終利益600億700万円（同64.3%増）と大幅増収増益で着地した。物流施設を中心に開発物件の売却が順調で、コロナの影響を大きく受けたホテル事業が回復、米国戸建住宅と中国のマンションの引渡しも進み、3期連続増収、2期連続増益で売上高、営業利益は過去最高を更新した。

通期は売上高4兆9200億円（前期比0.2%増）、営業利益3800億円（同18.3%減）、最終利益2500億円（同18.9%減）と期初予想を据え置いた。減益は退職給付に関連したイレギュラー要因によるもので、年間配当135円と14期連続増配を計画。

～決算情報～

ステムセル研究所

日本トリム

第1四半期は計画上回る 2Qから培養上清製造サービス貢献

ステムセル研究所（7096）の24年3月期第1四半期の単体決算は、売上高5億7700万円（前年同期比17.1%増）、営業利益8800万円（同20.1%増）、最終利益7500万円（同49.6%増）で着地。さい帯保管サービスが計画を上回る保管率となり、売上高は四半期ベースで過去最高を更新し、売上高、利益とも計画を上回った。

第2四半期からは6月から開始したさい帯を培養し、上清液を作成・提供する日本初の「ファミリー培養上清製造サービス」が業績に貢献、今後の検体数の増加を見据えて横浜細胞処理センターと第二保管センターの運用を強化しており、通期は売上高25億900万円（前期比20.0%増）、営業利益4億5100万円（同51.8%増）、最終利益3億円（同51.5%増）と期初予想を据え置いた。

1Qは営業利益9.1%増 整水器職域販売受注過去最高に

日本トリム（6788）の23年3月期の第1四半期（4月～6月）決算は、連結売上高で47億9600万円（前年同期比10.7%増）、営業利益5億5400万円（同9.1%増）、純利益4億2500万円（同30.1%増）となった。6月において、整水器販売事業の職域販売部門で、過去最高の月間受注台数5064台を記録。卸・OEM部門では、既存OEM先が引き続き好調に推移したほか、新規OEM先との取引スタートも寄与。電解水透析事業では新たな医療機関への新規導入も進んでいる。

通期は売上高198億円（前期比10.3%増）、営業利益27億2000万円（同14.4%増）、純利益18億7000万円（同13.6%増）と2ケタ増収増益の従来予想を据え置いている。

グルメ杵屋

大森屋

1Q26%増収で赤字縮小 収益店へ集中しレストラン黒字浮上

グルメ杵屋（9850）の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高81億8300万円（前年同期比25.6%増）、営業損益2億3300万円の赤字（前年同期3億1900万円の赤字）、最終損益1億2100万円の赤字（同4億1000万円の赤字）と大幅増収で赤字が縮小した。レストランは利益が見込める新規出店に投資を集中したことにより2ケタ増収で黒字浮上、機内食は大幅増収ながら回復に向けたコスト負担で赤字が拡大したが、業務用冷凍食品は冷凍弁当やおせちの増加により増収で赤字を縮小した。

通期は売上高379億5900万円（前期比27.0%増）、営業利益4億4700万円（前期3億8600万円の赤字）、最終利益4億900万円（同11億5000万円の赤字）と期初予想を据え置き黒字浮上を見込む。

ふりかけ製品好調に推移 第3四半期海苔高騰が利益圧迫

大森屋（2917）の23年9月期の第3四半期累計（10～6月）決算は、連結売上高で従来予想の105億1700万（前年同期比1.6%減）、営業利益で3億円（同53.7%減）、純利益で1億9500万円（同73.7%減）となった。

「緑黄野菜ふりかけ・小魚ふりかけ」などのふりかけ製品は好調に推移し、業務用海苔は、コンビニエンスストアなどの弁当・おにぎりなどの需要は回復傾向にあるが、主要原材料である原料海苔は主要産地の有明海での記録的な不作による収穫量の大幅な減少から仕入価格が全国的に高騰利益を圧迫した。

通期は売上高141億8000万円（前期比0.1%増）、営業利益3億4000万円（同38.3%減）、純利益2億2000万円（同67.7%減）と従来予想を据え置いた。

星野三太郎の 株街往来

～ハナテン中古車センター～

場とは全く無縁ではない。同社は2015年に東証2部に上場していた中古車販売チェーンのハナテンをTOB（公開買い付け）して翌年にハナテンは上場廃止になっており、この時にビッグモーターの社名を知った投資家が多いと思う。因みにハナテンは大阪の学研都市線の放出（はなてん）を本拠にしていた。ハナテンが上場していることよって放出の地名が全国的に認知されていただけに、TOBでこの社名が消えたときには残念に思ったのを覚えている。

筆者もその昔、ハナテンで中古車を購入した経験があるが、その後、まさかこのような大きな問題が発生するとは夢にも思っていなかった。こうなるなら筆者の個人的な感想としてはTOBされずにハナテンのまま存続して欲しかったのだが…。

この数カ月はビッグモーターによる不正が連日ニュースを賑わせている。日を追うごとに明らかに新たな不正には驚くばかりで、この問題が真面目に経営している同業の中古車販売業者のイメージも悪くならないかと懸念している。

さてビッグモーターは未上場企業だが、株式市場

この数カ



New product

アラハタ 最適熟度の果実のみ使用
まるごと果実 山形県産ラ・フランス



まるごと果実 山形県産ラ・フランス

アラハタ（2830）は果実と果汁だけで作ったフルーツプレッド「アラハタ まるごと果実」シリーズから「山形県産ラ・フランス」を昨年に引き続き数量限定で9月5日出荷で発売する。

まるごと果実は、フルーツそのままの風味やみずみずしさ、食感を生かしたフルーツプレッド。今回発売する「まるごと果実 山形県産ラ・フランス」は良質な産地として知られる、山形県産のラ・フランスを収穫後に追熟させ、最適な熟度となった果実のみを使用。存在感のあるごろっとした果肉のとろけるような食感と、芳醇な香りが特徴。参考小売価格は398円（税抜）/430円（税込）。

麒麟 食事に合う甘口フレーバー
麒麟特製 ジンジャーエールソー



麒麟ホールディングス（2503）グループの麒麟ビールは、“麒麟が上質に仕立てた、これしかないうまさの特製ソー”をコンセプトとした「麒麟特製」ブランドから、「麒麟特製 ジン

ジャーエールソー」（350ml缶、500ml缶）を9月12日から全国発売する。「麒麟特製」ブランドは、手間暇かけてこだわり抜いた製法によって「飲みごたえあるうまさ」と「品質感」を兼ね備えていることが高い評価を受けている。今回、「すっきりとした甘さがある」「食事に合う」といったイメージがあるジンジャーエールフレーバーを発売することで、食事にも合わせられるすっきりとした甘口フレーバーとしての新たな選択肢を提供する。パッケージにはシャンパンゴールドのベースカラーを採用している。

潮流

長期上昇トレンド変化なし

海外勢PBR1倍割れ銘柄に買い

marKet / bAnk

チによる米国債格付けの引き下げにあるが、この格下げについては、内外から疑問や批判の声が圧倒的に多い。

イエレン米財務長官はフィッチが米国の外貨建て長期債格付けを引き下げたことについて、「パンデミック（疾病の世界的流行）後の米国の力強い回復を踏まえると驚きだ」と述べた。「完全に不可解で、強く反対する」と語った。

サマーズ元財務長官やノーベル経済学賞受賞者のポール・クルーグマン氏も「この決定は広く嘲笑されている」とまで指摘している。また、著名投資家ウォーレン・バフェット氏も、米国債の格下げについては全く問題にならないとし、今後も米国債投資を継続するとしている。フィッチの悪材料は単に過熱感が高まっていた米国株に売りのきっかけを与えたに過ぎない。日柄調整が終了すれば、再度上昇基調が強まる動きになることが予想される。

日本株には7月安値を前に根強い押し目買いが入っている。日経平均のチャートを見ると、7月12日安値である3万1791円に接近した7月21日、同月28日はいずれも長い下ヒゲを形成したほか、取引時間帯に3万2000



8月に入って日経平均の下げを加速させた一因としては、格付け会社フィッ

した。

6月中旬以降、3万1000円台後半から3万3000円台後半でのレンジ推移が続いているが、レンジ下限では押し目買い意欲が旺盛である様子が確認できる。日本株はバリュー株が相場を牽引し

ている。日本のファンダメンタルズの改善への期待が今の日本株の上昇をもたらしている。

4月以降の17週間で海外投資家は現物と先物合計で8兆円超の日本株を買い越した。アベノミクス相場が始まった2012年11月以降の17週間の買越額6兆円超を勝る。7月1カ月間で海外投資家は現物と先物の合計で7453億円買い越した。8月の急落局面では海外投機筋は先物に大口売りを出したが、日経平均が大幅安となる場面ではPBR（株価純資産倍率）が1倍を割る個別銘柄に買いを入れているようだ。

米国金利上昇による米国株の調整程度で、今の日本株の長期上昇トレンドが変わることはないだろう。

潮流銘柄は日本テレビホールディングス（9404）、パナソニックホールディングス（6752）、ユアサ商事（8074）。



岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>

政策金利引き上げは終了



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



中国からの一般観光客の訪日も解禁された

000円処の下値の堅さを感じさせた。また、中国からの一般観光客の訪日も解禁されると伝わり、インバンド関連株が買われ上昇に弾みをつけた。決算は先週がピークを迎えたが概ね好調な数字となっている。だが、リーダー的な銘柄がなく上昇に力強さはない。全体も日経平均よりもTOPIXの方がしつかりしており幅広い銘柄が買われているといった感じである。今週は日本はお盆週に

ドル円の日足チャート



を起点と
した上値
抵抗ライ
ンの3万
3300
円処、抜
けてくれ
ば高値取
り高まる
う。一方
下値は5
日移動平

注目されていた米7月CPIは概ね市場の予想を下回る結果となり、利上げの長期化が後退して米国株は一時は大きく買われたが、米長期債の利回りが上昇すると株価は失速、方向感の無い形となっている。だが、為替が144円台後半まで円安に傾いており、これを好感した買い期待が日本株にはある。方向感はないものの底堅い展開を想定する。今週のレンジは3万2000円から3万3000円を想定する。
(ハチロク)

円安で買い入るか？

方向感ないが底堅い

先週の日経平均は前週末比約280円高と反発、週足陽線となった。3万2000円を割り込む場面もあったが、7月12日の安値(3万1791円71銭)を割り込むことなく今回も3万2000円割れからの反発となった。8月のSQ値は3万2013円86銭となったが、木曜日の取引でもこの値を割らずに推移し反発、3万2

また、中国からの一般観光客の訪日も解禁されると伝わり、インバンド関連株が買われ上昇に弾みをつけた。決算は先週がピークを迎えたが概ね好調な数字となっている。だが、リーダー的な銘柄がなく上昇に力強さはない。全体も日経平均よりもTOPIXの方がしつかりしており幅広い銘柄が買われているといった感じである。今週は日本はお盆週に

サポートラインとして意識されよう。25日移動平均線(3万2528円処)が上値抵抗ラインとして機能するほか一目均衡表の雲の上限(3万2657円処)や転換線(3万2659円処)も同水準に位置するためこの価格帯を抜けてくるかがポイントとなつてこよう。この価格帯を抜けてくれば3万3000円台が視野に入つてこよう。戻り相場のメドは6月高値

日経225先物の日足チャート



均線、3万2000円、ボリ
ンジャーバンドの▼2σ(3万
1850円処)が抵抗ライン
となる。

(ハチロク)

相場見通し

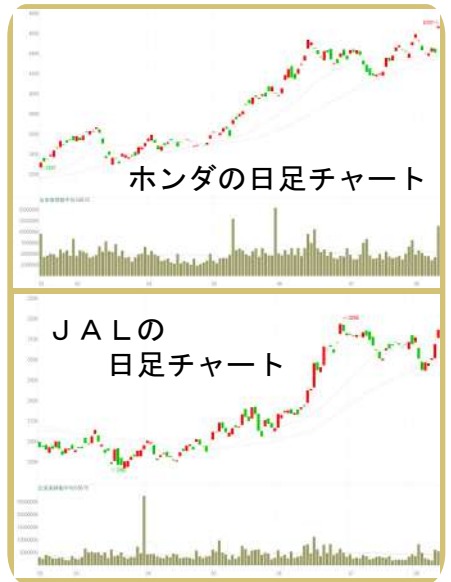
記者の視点

内需中心に個別物色

お盆休みで閑散相場か？

8月第2週の東京市場は、膠着感が強いものの、3連休前の10日に日経平均は3万2000円トビ台から戻す底堅い動きとなった。格付け会社ムーディーズが米国の銀行10行の信用格付けを1段階引き下げたほか、中国の不動産開発大手の碧桂園が今月6日が期日だったドル建て債2本の利払い（総額250万ドル）を履行できなかったと表明、その後は米政府が先端半導体や人工知能（AI）などを含めて中国への投資規制を一段と厳しくすると伝わるなど海外ではネガティブ材料が相次いでいる。これを受けてハイテク株の構成比率が高

いナスダック指数が調整色を強めているが、日経平均は3万2000円を下値に買入物が入る展開になった。個別では市場予想を上回る好決算と1対3株式分割を発表したホンダ（7267）や中国人の日本向け団体旅行解禁を受け資生堂（4911）やJAL（9201）などインバウンド関連が買い進まれ、内需を中心に好決算が目立ったことも下支えした。今週は15日に米7月小売り売上高、16日に米7月鉱工業生産・設備稼働率、7月開催のFOMC議事録の公表が予定されており、これら内容次第では米国の今後の利上げ動向に思惑が働こう。一方、国内では14日で第1四半期決算発表が一区切り、その後は企業、投資家ともにお盆休み入りとなり、マーケット全般は盛り上がり欠ける展開を想定する。日経平均では3万2000円割れでは押し目買いへ向けて上値を迫ろう。基本力強さも見られない。基本的には外部要因に左右されず好業績が見込まれるインバウンド関連を筆頭とする内需を引き続き個別物色する展開となる。



ホンダの日足チャート

JALの日足チャート

当面のスケジュール

- 15日 4-6月期GDP
中国7月工業生産、中国7月小売売上高、中国7月都市部固定資産投資
米7月小売売上高、米7月輸出入物価
米8月NY連銀製造業景気指数
- 16日 7月訪日外客数
米8月NY連銀ビジネスリーダーズサーベイ
米7月鉱工業生産・設備稼働率
7月25・26日開催のFOMC議事録
- 17日 7月貿易統計、6月機械受注
6月第三次産業活動指数
- 18日 7月消費者物価
日米韓首脳会談(ワシントンDCキャンプ・デービットド)
- 22日 米7月中古住宅販売件数
- 24日 米カンザスシティ連邦準備銀行、経済シンポジウム(ジャクソンホール会議)開催(~26日)
- 25日 7月企業向けサービス価格指数

編集後記

主要企業の1Q決算はおおむね堅調で、株価の反応も悪くなかった。内容が明らかに分け、好内容でも出尽くし感から値を崩すケースがあるのもいつものことだが、中小型企業の発表が集中する前週後半は新興グロースに好決算ながら派手に売られる銘柄が目立った。進捗率や1Qではない場合、直近3カ月の状況が問題視されていくが、株価の反応の鈍さが手じまい売りを誘っているように感じる。大型株シフトが進む現状、米利上げに明確な打ち止め感が出るまで新興グロースは分が悪いのだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。